

月刊しばうら

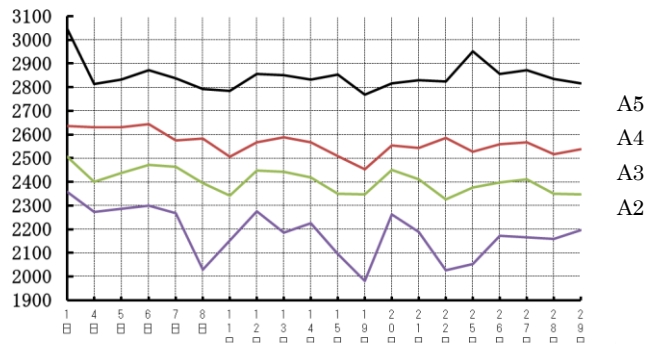
2016年8月号

大動物事業部

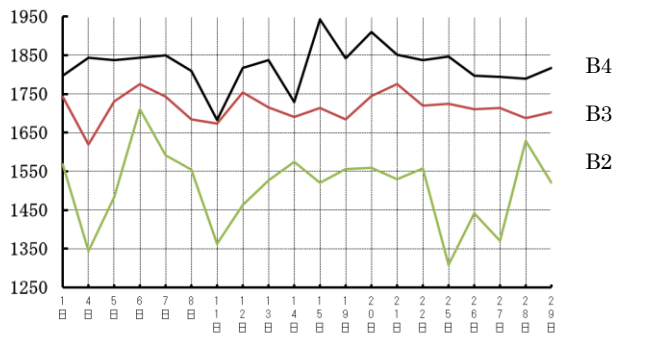
＜7月の相場動向＞

7月の牛枝肉相場は、和牛去勢A5が前月比7円高、同A4が36円安、同A3が47円安、同A2が116円安、交雑牛は去勢B3が38円高、同B2が1円高となり、交雑牛は和牛の高値相場を受けてシフトする動きなどが散見されており相場はもちあい、和牛は前月に続き軒並み続落の相場展開となった。和牛を中心に末端需要は低調な動きとなっており、今年の梅雨明けは平年より遅く、また選挙戦などもあり全体的には弱含みの相場展開となった。

和牛去勢 日別相場表（7月）



交雑去勢 日別相場表（7月）



和牛去勢月平均	前年同月比	前月比
A5 2,859円	114.6%	100.2%
A4 2,570円	112.1%	98.6%
A3 2,407円	111.1%	98.1%
A2 2,292円	108.3%	94.9%
交雑去勢月平均	前年同月比	前月比
B4 1,828円	101.5%	100.7%
B3 1,718円	103.4%	102.3%
B2 1,490円	98.4%	100.1%
乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比
B3 1,242円		
B2 1,027円	96.0%	93.9%

＜8月の全国出荷頭数予測＞

農水省統計部が発表した6月の食肉流通統計による全国のと畜頭数は、前年同月比6.8%減の8万3,042頭となった。うち和牛は9.4%減の3万4,549頭、乳用種は4.9%減の3万322頭、交雑種は4.0%減の1万7,295頭と市場開催日が前年と同じ中で、和牛は1割近く減少している。平年比で見

ても12.6%減となっており、5月に続き和牛の減少が大きくなっている。

農畜産業振興機構によると、8月の出荷予測頭数は、前年比1.7%増の8万5,800頭と予測している。品種別にみると和牛は1.1%増の3万5,600頭、交雑種は8.7%増の1万7,900頭、乳用種は0.7%減の3万900頭としている。

東京食肉市場の8月のと畜頭数は7,000頭を予定している。

＜8月の牛枝肉相場見通し＞

旧盆手当や焼き肉需要の高まりが期待されるが、高値相場に末端消費が低調なことから厳しい展開が予測される。引き続き出荷頭数不足は継続傾向にあるが、和牛は小幅な値動きで、交雑種は和牛の高騰を受けてシフトする動きが散見されており、値ごろ商材として引き合いが強まることで反発する可能性を含んでいるが、全体としては前月からのもちあいか。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800～2,900	B4	1,800～1,900
A4	2,500～2,600	B3	1,650～1,750
A3	2,400～2,500	B2	1,450～1,550
A2	2,200～2,300		
乳牛去勢			
B3	1,100～1,150		
B2	1,000～1,050		

＜8月の牛肉輸入量予測＞

財務省の貿易統計によると、6月の輸入牛肉通関量は、前年同月比0.7%増の3万9,389tとほぼ前年並みだった。豪州産チルドは減少したものの1万tを維持、一方で米国産チルドは9割近い増加となり、特にバラを中心に大幅に増加。不需要期中で、米国産バラの4～6月の3ヵ月の輸入量は前年同月比99.9%増の1万4,087tと倍増している。

農畜産業振興機構は8月の牛肉輸入数量予測を前年比18.2%増の4万2,300tと予測している。牛肉輸入量は、チルド・フローズンとも過去5年平均を上回る量でチルドは、22.5%増の2万500tと米国産の生産量の回復に伴う増加が見込まれ、前月同様に前年比を大幅に上回る見通しをしている。フローズンも、15.0%増の2万3,500tと、牛群再構築に伴う出荷頭数の減少により豪州産が減少する一方で、チルドと同様、米国産の増加が見込まれると予測している。

輸入牛肉通関量		6月	前年同月	前年同月比
チルド	豪州	10,930	11,492	95.1%
	米国	9,410	4,981	188.9%
	その他	877	862	101.7%
	合計	21,217	17,335	122.4%
フローズン	豪州	9,640	13,833	69.7%
	米国	5,864	5,749	102.0%
	その他	2,668	2,212	120.6%
合計	18,172	21,794	83.4%	

単位：t

出典：食肉速報

小動物事業部

食肉流通統計によると、6月の全国と畜頭数は130万4,865頭（前年同月比100.7%）となり前年より増加した。

また、6月分の豚肉通関実績は、総量で7万5,660トン（前年同月比117.2%）と前年より上回った。うちチルドが3万1,009トン（同126.3%）と大幅増。内訳は米国が1万8,370トン（同127.4%）、カナダは1万1,652トン（同128.5%）に増加。メキシコが982トン（同92.5%）と減少。フローズンは4万4,651トン（同111.6%）と前年を上回り、デンマークが9,688トン（同107.6%）、メキシコが5,474トン（同115.5%）と増加。米国が5,248トン（同81.1%）、カナダが3,766トン（同88.7%）と減少した。

＜7月の豚取引の推移＞

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
1日	59,700	660	640	622
4日	59,400	673	645	566
5日	62,700	674	643	854
6日	41,100	651	623	525
7日	62,500	653	605	585
8日	59,300	639	604	688

上旬の全国と畜頭数は1日あたり5万7,400頭とほぼ前年並の頭数であった。当市場においては平均640頭と前年を下回る上場頭数であった。

6月の相場展開は乱高下があったものの基本高値で推移した。7月に入っても依然スソ物がタイトな状況は変わらず高値圏内のスタートとなった。

部分肉はロイン系の需要が上昇傾向であったが、バラについては気温が高まりと共に鈍化傾向となった。

当市場の上物価格は660円～639円の間で安定した。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
11日	60,800	607	563	669
12日	63,700	582	549	893
13日	58,100	547	515	585
14日	63,000	545	511	716
15日	61,900	543	512	811
19日	70,500	544	504	712
20日	64,000	507	475	778

中旬の全国と畜頭数は1日あたり6万3,100頭と前年を上回った。当市場は平均730頭と前年をやや下回った。

月の後半に学校給食中断を控えている状況下で、スソ物相場が若干下げた。また「海の日」等のバーベキュー需要が見込まれるが、量販店の精肉売場の主役は、正肉に関して見ると牛肉が中心といった状態であった。

部分肉はバラの荷動きがにぶく、投げ物が出てきた。当市場の上物平均価格も607円から507円へ一気に連日の下げとなった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
21日	64,400	516	479	797
22日	65,700	461	447	818
25日	58,100	464	440	928
26日	63,100	471	453	718
27日	59,000	457	444	538
28日	61,200	472	459	636
29日	63,300	474	454	824

下旬の全国と畜頭数は、平均6万2,100頭と前年を上回った。当市場の上場頭数は740頭と前年をわずかに下回った。

スソ物の荷動きが輸入物中心になりつつある状況で学校給食も中断となり、部分肉は特にモモ単価が下がってきた。バラについては需要が見込める状態になく、輸入チルドと価格が逆転する場面もでてきた。一方、カタロースの引き

合いが強くとロースは堅調となった。

当市場の上物価格は400円台中盤で一応下げ止まる形となった。

＜8月の豚枝肉相場見通し＞

農水省による8月の全国と畜頭数は、132万6,000頭（前年同月比110.0%）と予測しており、一日当たりの頭数は約5万7,200頭である。当市場の7月の集荷予定頭数は1万6,000頭となっており、一日当たりでは約800頭の見込みである。

また、農畜産業振興機構による8月分の豚肉輸入見込数量は、総量で6万7,800トン（前年同月比105.1%）の予測となっている。内訳はチルドが2万7,300トン（同103.2%）、フローズンは4万500トン（同106.4%）の予測である。

また5月における豚肉推定在庫量は、国産品が1万8,876トン（前年同月比112.8%）、輸入品は15万9,394トン（同90.0%）となり合計17万3,463トン（同92.0%）となった。推定出回り量は13万5,390トン（前年比103.0%）で前年を上回った。うち国産品は7万1,613トン（同104.7%）、輸入品は6万3,778トン（同101.2%）であった。国内生産量は7万2,419トン（同105.8%）と引き続き前年を上回った。

この時期にきて豚肉流通の主流は、価格の安定しない国産物よりも安価な輸入物に移ったと言える。

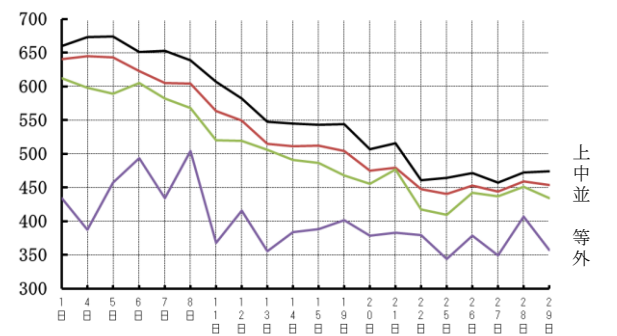
特に輸入チルドは堅調な荷動きとなっており、在庫量はそれほど潤沢ではない。また、デンマーク産においては生産遅れの影響でタイトな状況が続いている。部分肉ではバラの動きが非常に弱く、在庫が解消に向かうのは気温が下がる頃の見込みである。

よって当市場の上物価格も674円～457円へと右肩下りの連日下げ相場となった。

今年は祝日「山の日」が新設され行楽需要が期待されるが豚価を押し上げる材料には乏しい。

しかし、ようやく相場に下げ止まり感が見え始めており8月の上物価格480円、中物460円と予測する。

豚 日別相場表（7月）



東京都港区港南2-7-19

東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127

URL <http://www.tmmc.co.jp/>

出荷者の皆様へ

PEDをはじめとする様々な病気を予防するため、東京食肉市場では防疫体制を強化しております。来場の際における生体車の消毒など、衛生担保のため、引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。